

里母として学んだことNO3

赤ちゃんとの関係作り（乳児とは2歳まで、3歳から幼児とした場合）

赤ちゃんがお腹の中に宿ったときから約10カ月の間には準備期間として母親になる喜びや、親になると言う責任が徐々に備って来るのだが、里親として赤ちゃん（乳児）を受けた時、これから何をどうして行ったらと不安になることが多い事を想定し私が乳児養育から学んだ体験から。

- 1、 出会い（お互いを見つめあいアイコンタクトとり、やさしく声かけをしながら、慈しみを持って触れ合う、指の先1本1本や足先までも）
- 2、 次に赤ちゃんの一番好きなリラックス体制と養育者（特に里母の場合）にとってもリラックスした体制の歩み寄りをしていく。（いろいろな場合を想定して考える、例えば、体をそわせない反り返りや、笑顔が出ない、硬直状態であっても同様な行動をしていく）
- 3、 入浴、オムツ替え、ミルクを飲む時の飲ませ方、抱っこの仕方（立って抱く、座って抱く、歩きながら抱く、寝転んで抱く）等々、触れ合いの中からお互いの一番ベストな体制を作りあう。
- 4、 赤ちゃんが養育者との（特に里母の場合）馴染み合う体制、すなわちお互いに無理のない心地よい関係のこと。
- 5、 赤ちゃんと養育者の関係が出来るまでは、慈しみを持って優先的に24時間をフルにおしみなく使う。
- 6、 徐々に喜怒哀楽のメリハリや人見知りが出始めてきたら、養育者の持っている愛情をさらにフル活動する。